

# sMedio REPORT

Vol. **7** 第12期 中間株主通信 2018.1.1 → 2018.6.30

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「デジタルトランスフォーメーション(ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させる)を加速する。」をミッションに掲げ、社業の発展に邁進しております。

パソコンやデジタル家電の国内出荷台数は、引き続き低調となっているなど既存事業は厳しい環境に置かれており、低迷するロイヤリティ収入のテコ入れと、新たな成長エンジンとなる事業の立ち上げ・育成が、当社の課題であります。

ロイヤリティ収入につきましては、2018年12月1日開始予定の新4K/8K衛星放送に間に合うよう、組込みブラウザ「tourbillon」シリーズと新4K/8K衛星放送録画番組の再生プレイヤーの開発を進めており、目途がつつつあります。

新たな成長エンジンにつきましては、「顔認識・表情認識AIエンジン」、書店向けマーケティング・プロモーション施策の共同開発、建設現場への活用およびIoTプラットフォームのスマートホームソリューションへの提供といった形で着実に実績が出てきており、より一層、強化していきます。

第2四半期決算は、計画を上回る29百万円の営業利益を計上し、2018年12月期通期での黒字化に向けて、しっかりと利益を確保できました。

当社グループは、顧客をはじめ、ステークホルダーの皆様と価値を共有しながら、社会から必要とされる企業グループであり続けるため、果敢に挑戦し、自らも進化を続けていきます。今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **岩本 定則**

当社グループについて 当社グループをもっと知っていただくために、株主の皆さま

# IoT、AI…技術革新に、当社

Q1

sMedio AI Technologiesの利用シーンは、  
広がっているのでしょうか。

A

当社が得意としている画像解析技術をベースとしたディープラーニングを活用したAI製品群は、人間の「顔」の識別から出発し、性別、年代、表情の識別、物体認識、モノのトラッキングへと展開してきました。

現在、建設現場での工程管理に、当社のAI製品群が利用できるよう、西松建設(株)様と共同開発を進めています。

今回の建設現場で当社に求められるものは、人間の

「顔」を識別することではなく、工程毎に異なる機械の種類を画像から識別することであり、物体認識とモノのトラッキングを応用することで、ソリューションを提供することになります。

今回の利用シーンの拡大は、当社にとって新たな挑戦となり、当社のAI製品群が様々なシーンでソリューションを提供できることを示す有意義な挑戦であると考えております。



どこでAI? どこがAI?



トンネル工事は、1サイクルの作業で数メートルしか掘り進めないため、トンネル完成までに、数百～数千回も作業を繰り返すこととなります。

各工程では、ダイナマイトを入れる穴を掘る機械(ジャンボ)やダイナマイトを入れる機械、爆破で砕いた岩(ずり)を運び出すトラクターショベルやダンプ車、ミキサー車、コンクリートを吹き付ける機械などが使用されます。

工事がどの工程にあるのかは、使用されている機械の種類で判定でき、その判定にAIを活用します。

では、なぜ、この判定にAIを活用するのでしょうか。

人間は、ダンプ車とミキサー車を見れば、全く別物であると容易に認識できますが、コンピュータはダンプ車の定義がないと何も判定できません。ダンプ車の定義は簡単なようで、非常に難しく、コンピュータが判定に使える定義を完全に用意することはおよそ不可能です。

ディープラーニングが有する、画像から繰り返し学習する機能のおかげで、定義がなくとも、AIが画像から機械の種類(ダンプ車かミキサー車かなど)を判別できるようになります。

AIの力を利用することで、コンピュータだけでは実現しないことが実現できるようになります。

の疑問にお答えします。

# のソリューションが新たな価値

Q2

sMedio Smart Solutionsの利用シーンは、  
広がっているのでしょうか。

A

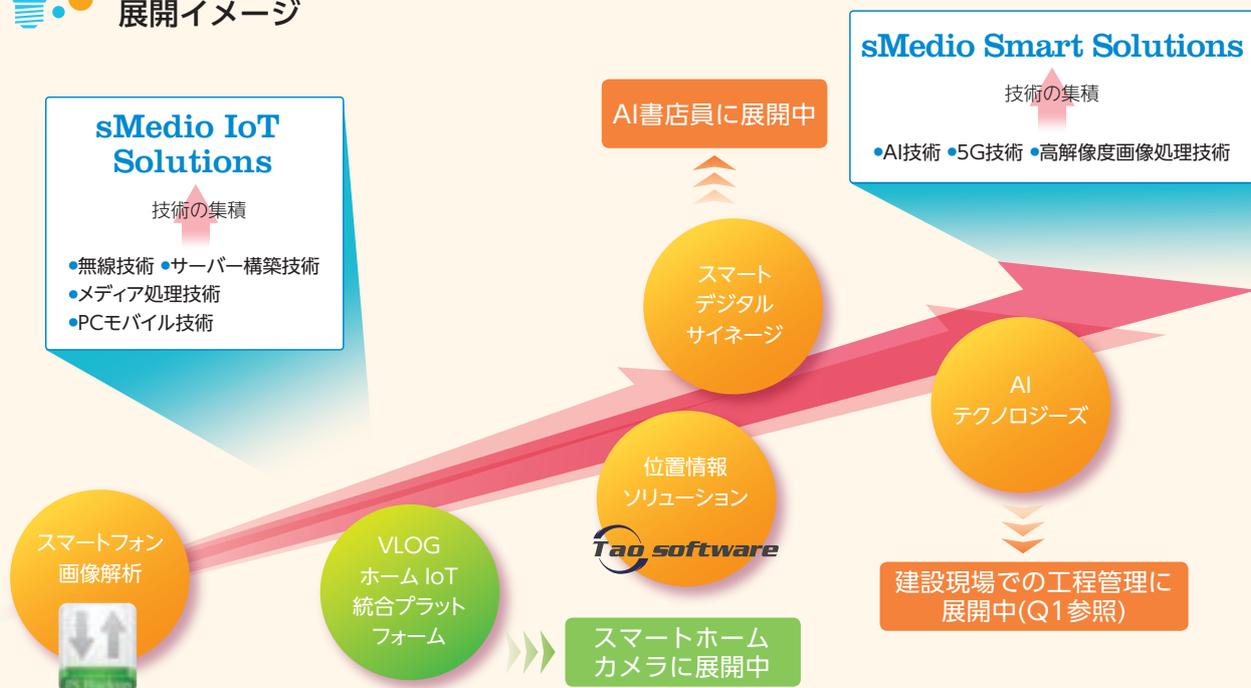
昨年11月に、VLOGホームIoT統合プラットフォームをOEMしたサービスの提供開始およびスマートデジタルサイネージ「AI書店員」の共同開発を発表しました。

発表後から現在までの状況は、展開の形が異なっております。

VLOGホームIoT統合プラットフォームをOEMしたサービスの提供は、引き続き、既存のサービス提供に注力する形となっております。

一方、「AI書店員」は、①書店限定での実証実験から、展示会といったイベントでの利用実績を積み、②他のキャラクターとのコラボを実施するなど、活躍の場を広げる契機を得て、今後も利用シーンの拡大を狙う形となっております。

「sMedio Smart Solutions」が提供できるソリューションは、他にも存在すると考えており、今後も、市場のニーズにあったソリューション提供を心がけていきます。



\*本株主通信に記載されている会社名および製品・サービス名などは各社の登録商標または商標です。

## 用語解説

**コンピュータが必要とする定義** ……コンピュータは、複雑な計算を自動的に実行できるが、その処理手順は、人間などがコンピュータが判別できる言語で記述して与えなければ、コンピュータは能力を発揮できない。  
この処理手順のことをここでは“定義”と呼んでいる。

# を創出

Q3

直近2年間、最終赤字が続いていますが、財務状況はどのような状況なのでしょうか。

A

2期累計で1億4千万円の最終赤字を計上したことや昨年の2億2千万円分の自己株式取得により、2017年12月末時点で、純資産が12億9千万円まで減少し、2018年6月末には、利益を計上したことで若干回復をし、13億円となっております。

自己資本比率は、76.4%と健全な水準を維持しており、現預金は総資産17億円のうち、12億2千万円を占めております。2017年12月末時点からの現預金増加額は

3百万円と、大きいとは言えない額ではありますが、営業キャッシュ・フローも8千万円の黒字を確保しています。

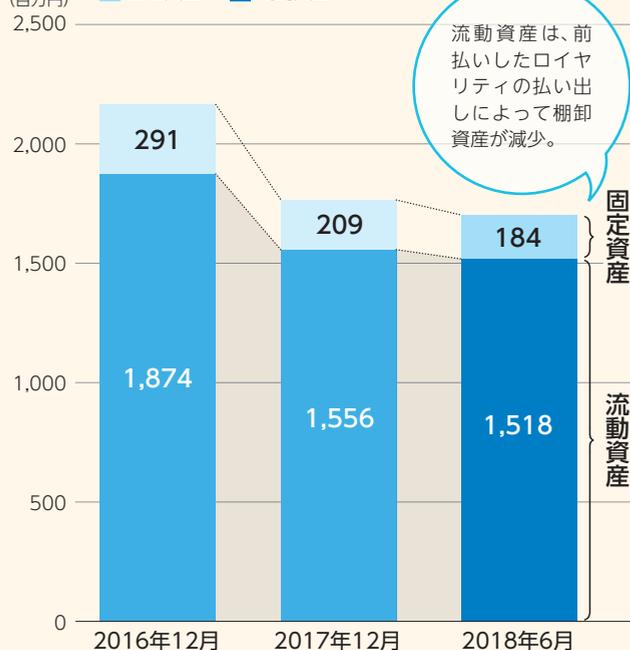
借入金2億4千万円を除いても、保有する現預金で、運転資金を賄うことはもちろん、新規事業への投資も十分に可能であると考えております。

しかしながら、2期連続の最終赤字で、株主の皆様にはご心配をおかけしておりますので、今期は、新規事業への投資を継続しつつ、黒字化を達成したいと考えております。

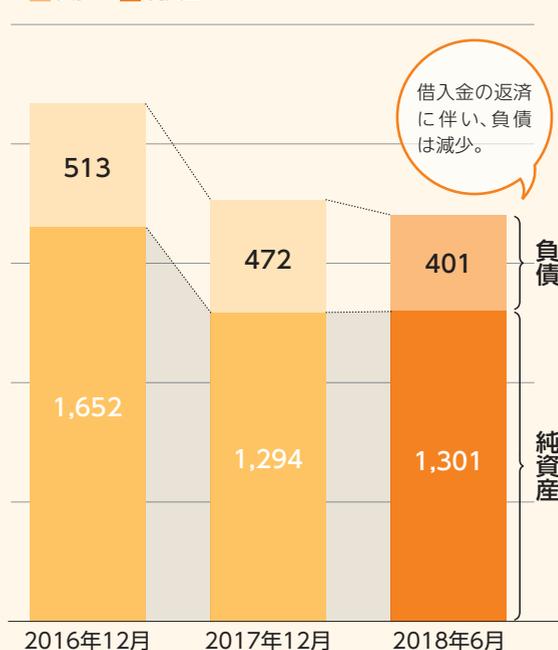


## 資産と負債・純資産

(百万円) ■ 固定資産 ■ 流動資産



■ 負債 ■ 純資産



2017年12月期に最終赤字(1億4千万円)を計上し、さらに自己株式(2億2千万円)を取得したことで、純資産および現預金が減少し、総資産規模も縮小。

2018年6月期は、12百万円の最終利益を計上し、純資産も若干回復。

# About sMedio

## 社会に貢献できる豊かなマルチメディアライフを目指して

当社は、スピーディーに (Speed)、世界市場に向けて (Sphere)、ソフトウェア (Software) 製品とサービスを提供するソフトウェア開発、サービス提供会社です。

当社は2007年の設立以来、マルチメディア、無線接続技術関連ソフトウェアの開発力で高い評価を獲得しています。

近年、当社は「デジタルトランスフォーメーションの加速」をミッションとして掲げ、AI(人工知能)による映像解析、IoTプラットフォーム製品、セキュリティ関連技術に事業分野を広げ、ソフトウェアによる新たな価値の創造に取り組んでいます。

### sMedioの 強み

1

Media  
処理技術

2

無線通信  
技術

3

著作権保護/  
認証技術

新製品を開発・製品化するための全ての要素技術を習得しており、マルチOS・マルチデバイスに対応できることが当社の強みでもあり、他社にマネのできない先端的な製品開発の源泉となっています。

無線接続技術関連製品を使うとこのようなことが可能になります。

寝室  
ホーム  
ネットワーク

リビング  
ピアツーピア  
ネットワーク

外出先  
リモート  
アクセス

このような技術の保有という強みを持っていることで無線接続技術関連製品を幅広く提供することが可能となりました。様々なシーンで当社技術や製品が使われています。

## sMedioが目指すもの

### 技術開発力

明日をもっとコネクティブに。

インターネット化する社会。その進化を、技術力とグローバルな展開力で加速する。

### 新しい魅力

お客様のために、というミッション。

そのデバイスに先進の機能を、新しい魅力を。お客様のバリューを高める、それが私たちのバリュー。

### 世界へ

アジアから世界へ。

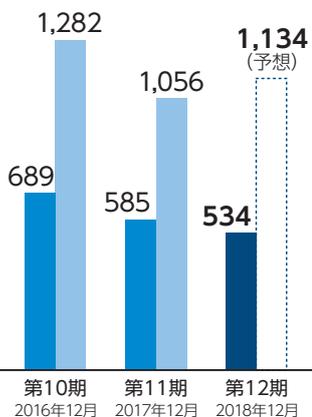
人材や技術というリソースを、国境を越えて結集し、革新的なソフトウェアを、いち早く世界へ。

# 連結業績ハイライト

## 売上高

(単位:百万円)

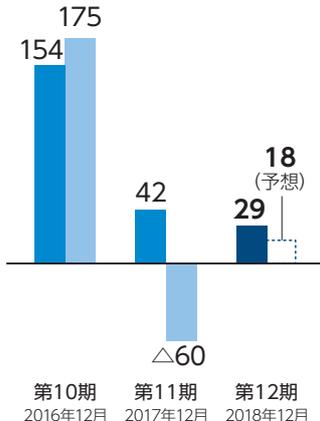
上半期 ■ 通期 □



## 営業利益

(単位:百万円)

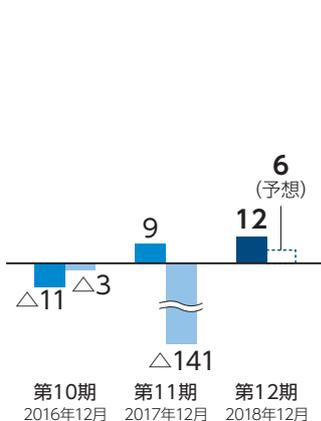
上半期 ■ 通期 □



## 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位:百万円)

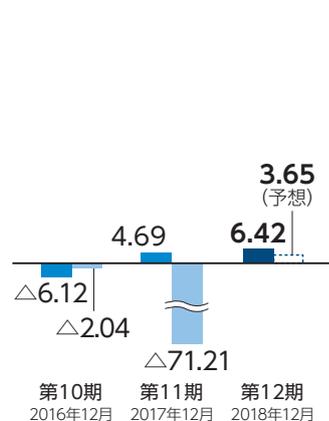
上半期 ■ 通期 □



## 1株当たり四半期(当期)純利益金額

(単位:円)

上半期 ■ 通期 □



# 株主インフォメーション

## 会社の概要 (2018年6月30日現在)

社名	株式会社sMedio
本社所在地	〒104-0033 東京都中央区新川2-3-1 セントラルスクエア8階
設立	2007年3月16日
資本金	5億708万円
従業員数	60名 (役員含まず、子会社従業員含む)
役員	代表取締役社長 岩本 定則 取締役 中村 嘉伸 取締役 黄 七零 取締役 北埜 弘剛 取締役 (独立社外) 落合 洋司 取締役 (独立社外) 林 志中 監査役 (常勤) (独立社外) 石津 健鳳 監査役 渡邊 雅文 監査役 (独立社外) 本郷 喜千
関連子会社等	sMedio Technology (Shanghai) Inc. (中国) sMedio America Inc. (米国) 株式会社情報スペース タオソフトウェア株式会社

## 株式の状況 (2018年6月30日現在)

発行可能株式総数	6,000,000株
発行済株式の総数	2,029,521株 (うち自己株式 125,092株)
株主数	1,909名

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
配当支払株主確定日	12月31日 (期末配当) 6月30日 (中間配当)
1単元の株式数	100株
証券コード	3913
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する方法により行う。

## IRカレンダー

年	月	内容
2018年	9月	
	10月	
	11月	▶ 第3四半期決算発表
	12月	
2019年	1月	
	2月	▶ 決算発表
	3月	▶ 定時株主総会
	4月	
	5月	▶ 第1四半期決算発表
	6月	
	7月	
	8月	▶ 第2四半期決算発表

株式会社sMedio

http://www.smedio.co.jp



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。